

第71回「クリスマス・ドロップ作戦」始動(1)

The 71st Operation Christmas Drop kicks off

December 6, 2022

By Staff Sgt. Jessica Avallone, 1st Lt. Danny Rangel, Yasuo Osakabe
374th Airlift Wing Public Affairs

毎年12月、横田基地のC-130J乗務員はクリスマス・ドロップ作戦の拠点となるグアムのアンダーセン空軍基地に赴き、ミクロネシア連邦やパラオ共和国の島々の住民に食料、生活物資、学用品などを空から届けている。その島々は世界で最も遠い離島で、米国本土の広さほどある海上に点在する。毎年、クリスマス・ドロップ作戦(OCD)は、この地域で頻発する自然災害への対応に備え、管轄地域内のパートナー諸国と(人道支援・災害救援の)技術を共有し技量の練度を高める場となっている。そして同作戦の任務を通じて生活物資に乏しい島民にアメリカの善意の気持ちを届けている。

(写真1)11月30日、グアムのアンダーセン空軍基地で横田基地のC-130Jスーパーハーキュリーズを出迎える米空軍第36遠征空輸中隊のジェン・ブレントン大尉(左)とアンドリュー・ザルディバー大尉。この日のうちに、OCDIに参加する空兵を乗せた3機の横田基地所属のC-130Jが到着した。OCDIは、米軍とパートナー諸国の軍が連携して行う数多くの訓練の一つで、隣人や友人と互いに尊重し協力する関係を象徴している。

(写真2)11月30日、グアムのアンダーセン空軍基地のフライトラインに駐機する第36遠征空輸中隊のC-130Jスーパーハーキュリーズ。

(写真3)グアムのアンダーセン空軍基地で12月3日、集合写真を撮る米空軍、航空自衛隊、オーストラリア空軍、ニュージーランド空軍、韓国空軍の隊員たち。

クリスマス・ドロップ作戦は、米国防総省が最も長く行っている人道的空輸作戦である。この伝統は、1952年のクリスマスシーズンに、B-29スーパーフォートレスの乗組員が、ハワイの南西3,500マイル(約5,600キロ)にあるカピングマランギ島から飛行機に向かって手を振る島民を見たことから始まった。これを見たB-29スーパーフォートレスの乗組員は、クリスマスの精神をもって機内にあった物資を集め、パラシュートに取り付けて島の人々に投下した。それがこの作戦の名前の由来となった。現在では、太平洋にある50以上の島々に人道支援物資を空から届けている。



1

(Photo by Yasuo Osakabe)



2

(Photo by Yasuo Osakabe)



3

(Photo by Yasuo Osakabe)

第71回「クリスマス・ドロップ作戦」始動(2)

The 71st Operation Christmas Drop kicks off

December 6, 2022

By Staff Sgt. Jessica Avallone, 1st Lt. Danny Rangel, Yasuo Osakabe
374th Airlift Wing Public Affairs

(写真4) 12月3日、グアムのアンダーセン空軍基地で飛行前の点検を行う第374空輸航空団司令官アンドリュー・ラダン大佐。

クリスマス・ドロップ作戦は、国防総省で最も長く続いている人道支援・災害救援訓練である。毎年、米空軍は太平洋空軍の管轄内のパートナー諸国と連携し、南東太平洋の離島に物資を届けている。



4

(Photo by Yasuo Osakabe)

(写真5) 12月4日、ミクロネシア連邦のウリン島上空で物資を投下する準備をする米空軍第36遠征空輸中隊C-130Jロードマスターのキャメロン・パルマー一等空兵(右)、ライアン・ベリー技能軍曹(中央)、ダコタ・デイビス上級空兵(左)。

コールサイン「サンタ11」の航空機は、アソー島、ファラロップ島、フェイス島を含む東部カロリン諸島の島々に物資を詰めた14個の箱を届けた。



5

(Photo by Yasuo Osakabe)

(写真6) 12月4日、西太平洋のカロリン諸島のアソー環礁上空で目視確認を行う米空軍第36遠征空輸中隊C-130Jロードマスターのキャメロン・パルマー一等空兵。



6

(Photo by Yasuo Osakabe)